

平成19年7月6日洪水に係る松原ダム・下笠ダムの洪水調節効果について
～今年度2回目の洪水調節を行う～

【速報推計】

筑後川ダム統合管理事務所では、今回の降雨により松原・下笠ダムにおいて洪水調節を実施しました。その結果、松原ダム・下笠ダムで約22,852千m³を貯留したことで、最大調節時、日田市の小淵地点で約0.9mの水位低減効果を発揮し、はん濫危険水位までの水位上昇を防ぐ効果があったと推測しています。

梅雨前線の影響により、松原ダム、下笠ダム流域では7月5日夜から雨が降り始め、7日13時までの累計雨量は松原ダム周辺流域で約270mm、下笠ダム周辺流域で約327mmに達しました。

このため、松原ダムでは流入量が700m³/sに達した6日23時06分より洪水調節を開始し、7日2時19分にはピーク流入量1,159m³/sに対して、374m³/sをダムに貯留し785m³/sを放流しました。また、下笠ダムでは、流入量が350m³/sに達した6日21時12分より洪水調節を開始し、7日2時11分にはピーク流入量1,098m³/sに対して、753m³/sをダムに貯留し345m³/sを放流しました。これらの操作により、松原・下笠ダムでは約22,852千m³を貯留し、小淵地点での約0.9mの水位低減効果を行ったと推測しています。

問い合わせ

国土交通省 九州地方整備局

筑後川ダム統合管理事務所

管理課長 田熊 潤司

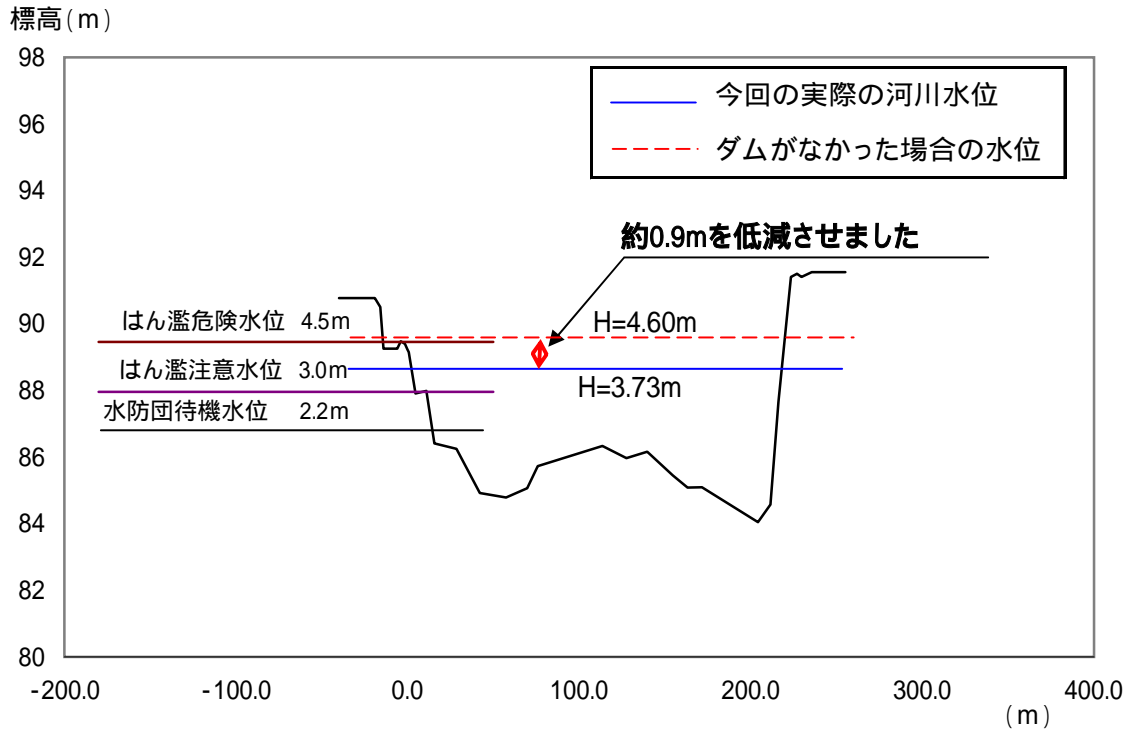
TEL 0942-39-6651
内線 331

1. ダムの最大調節量時における調節効果

1) 日田市小湊地点

ダム最大調節量時における調節効果

松原ダム・下笠ダムによって約0.9mの水位低減効果がありました。



2) 日田市小湊地点平面図

